豊庄だより

福岡市早良区南庄２－２６－１３
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長　西尾　達

第 776 号 2023 年 12 月 11 日

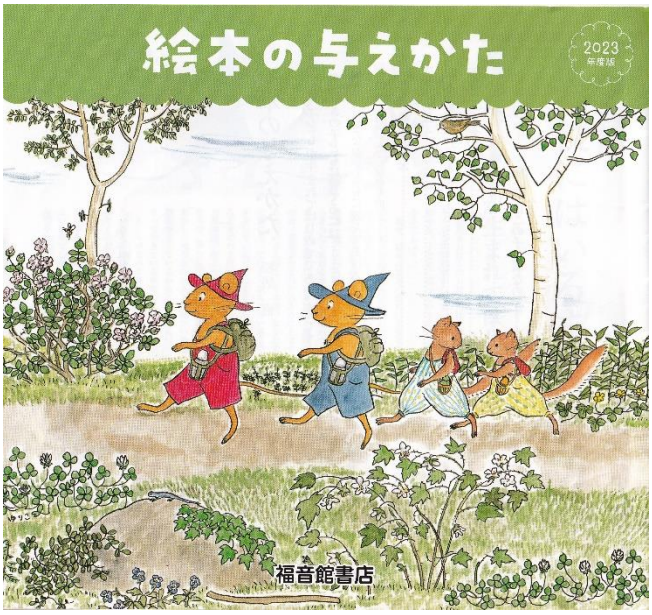
前号で、リハーサルの様子を紹介しましたが、写真を載せたことにひまわり組の子どもたちから、「ばれちゃうよ」「なんで載っているの」「秘密にしていたのに」の声が上がりました。ひまわり組では、配役などをシークレットにしていたそうで、そのことを知らずに誠に申し訳ないことをしました。しかし、それだけ子どもたちは生活発表会の劇に思いを込めているのだなと思いました。こんな気持ちで子どもたちは練習に励んでいます。保護者のみなさん、本番をお楽しみに！

さて、今回の劇は、劇のタイトルはまだ、明かせませんがほとんどが絵本を参考にして、担任が台本を作っています。その絵本が今号のテーマです。

絵本は、子どもが生まれてはじめて出会う「本」です。絵本がなくても子どもは育ちます。それでも子どもに絵本が大切だというには、理由があります。一冊の絵本は、5 分から 10 分もあれば読み終わります。しかし、そのひとときは親と子の気持ちがとても自然に寄り添う時間になります。

保育園では本の貸し出しをしています。まだ小さい子たちは自分で本を選ぶのは早いので、3 歳児の前半までは保護者と一緒に借りています。それ以降は、子どもたちは自分で本を選び借りています。左の写真は、ひまわり組の子どもたちが自分で本を選び、借りている様子です。

数千冊ある蔵書は、先生たちが「読んでほしい」と選んだものはもちろん、子どもたちに人気のある絵本や、保護者からのリクエストを反映した選本もしています。また、貸し出しの場は、子どもたちにとってあいさつやマナー、集団でのルールにもなっています。私の本との出会いを書きます。私の親は私たち（兄と私、遅れて妹）に絵本も入れて、多くの本を与えてくれました。兄は読むスピードも早く、世界文学全集を次から次へと読破していました。一方私は、ほとんど読もうとせず、コンプレックスを感じていました。それでも、少しは読まなくてはと、リンドグレーンやアーサー・ランサム、ドリトル先生などをぼちぼちと読んでいました。



小さい時から、子どもたちには、たくさん読んでほしいですね。小さい時から多くの本に触れあえることができるのは、うらやましいです。

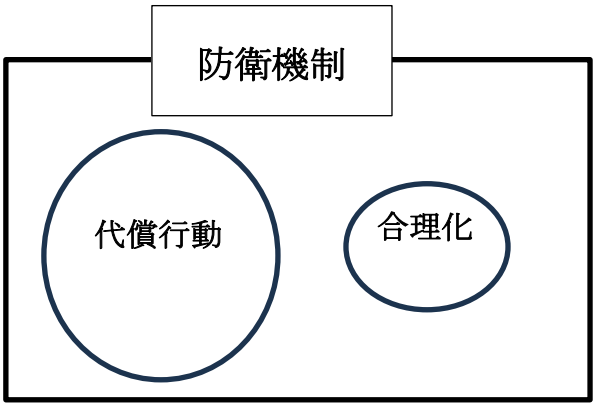
※右の冊子（「絵本の与え方」）は、先日、小田部にあるＳ書店で見つけたものです。今号を書くにあたって、参考にさせていただきました。

すっぱいぶどう

今年の観劇会では三枚のお札の劇がありました。その時に狐の「八雲」が主人公の小坊主の味方として出てきたのですが、最初の方の 1 シーンで「八雲にぶどうを取って越させようとするけどそのぶどうはすっぱかった」というのがありました。このシーンを見て私はイソップ物語の「すっぱいぶどう」を思い出したので、その事についてお話します。

まず軽く「すっぱいぶどう」のお話をおさらいしておくと、「狐が気の上のブドウを取ろうとしたが届かなかったので『あのぶどうはすっぱいに違いない』と決めつけて他の食べ物を探しに行く」という話です。この話からは「負け惜しみの愚かさ」と読み取れれば「あきらめも肝心」とも読み取れなくもない話です。今回はこの「あきらめも肝心」の方について、代償行動について話していきます。

代償行動というのはストレス反応のひとつで、何かストレスを感じる事があった時に精神が傷つかないように行動したり考え方を変えたりすることです。心理学者のフロイトが代表的な 10 種をあげており、①抑圧②退行③反動形成④隔離⑤打消し⑥投影⑦取り入れ⑧自己自身への向け換え⑨逆転⑩昇華と置き換え　と上げました。もちろんこれ以外にもありますので詳しくは調べてみてください。この代償行動を含んだ大きな枠組みとして防衛機制という物がありますその防衛機制の中に「合理化」と呼ばれる、今回のすっぱいぶどうの話が当てはまる物が出てきます。



「合理化」とは物事が上手くいかなかったときに、理屈を考えて、上手くいかないことが正しいと思う事です。ぶどうの話で言えば、「取ったとしてもすっぱくて食べられないから取らない方が正しい」といった具合です。実はこの合理化というのはかなり高度な部類の防衛機制であり、賢くないとできません。そして一番大事な事はこの防衛機制を妨げない事です。

例えば代償行動を妨げると、より低次な代償行動を行うようになったりします。代表的なもので言えば自傷行為や退行です。特に子どもは能力が発達していないので、低次の代償行動をしやすいです。つまりあっという間に精神的に追い込まれてしまいやすいという事です。では代償行動を妨げずに代償行動させないためには何が必要なのでしょうか？

それは代償をしないでいいように最初の要求を満たしてあげる事です。研修で習ったのですが、性犯罪者の多くは子どもの頃に性的虐待を受けていたり激しい抑圧を受けていたり、スキンシップが足りなかったりするそうです。そのようなストレスの代償が大人になった時に犯罪として出るそうです。だから再犯防止のためには加害者のケアが重要との事でした。ここまで激しいものにはなら無いとしても、子どもに我慢させるのはあまり良いことでは無いのです。しかしどれが最初の要求で、どれが代償行動なのかを見分けるのは難しいです。物を壊したり隠したりするのはそうしたいわけでは無く注目してほしいからです。親の前で他の人に甘えるのは、同じように親に甘えたいからです。「帰るよ」という呼びかけに応じず遊び続けるのは、それ以外のタイミングだと遊んでくれないからです。これらは多くの場合であり、絶対ではありませんがおおむね間違っていないと思います。

とはいえ、いつも要求を満たせてあげるわけではありません。それ以外の時間を子ども達にとってあげるようにしたいものです。（文責　西尾舜）